

総合的な学習の時間 「ふくし教室・手話」

海老名市立杉本小学校



単元（題材）目標

- 人を思いやる気持ちと、社会的にハンディキャップのある人と差別することなく接することができる心を育て、社会福祉をより身近に感じ、理解する。

（1）実施時期

10月中旬実施

（2）対象（学年等・人数）

第3学年 99名 小学校教員 3名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：社会福祉協議会より手話サークルの方々

（4）実施内容

- ① 聴覚障がい者の方のお話を聞く。
 - ・聞こえないとはどういうことか
 - ・日常生活で不便なことは何か
- ② 手話体験をする。
 - ・ジェスチャーゲーム
 - ・伝言ゲーム
 - ・簡単な手話を学ぶ（挨拶・学校名等）
 - ・曲にあわせて手話を学ぶ

（5）成果

- 手話ができなくても、身振り手振り、筆記などを通して意志疎通できることを理解し、伝えたい・わかりたいという気持ちが必要であることに気づくことができた。
- 相手を思いやるということはどういうことなのか、考えを深めることができた。
- 聴覚障がいのある方のために、どんな物が工夫されているのか（来客を伝えるランプ・テレビの字幕等）を知ることができた。

（6）その他

- 手話に親しみ、学習後も手話を使う姿が見られた。
- 校外学習の際、街の中で聴覚障がいや視覚障がいのある方のための工夫を積極的に探す姿が見られた。